

本橋成一&スズキコージ展
『BEFORE&AFTER 3・11』



映画上映
&
本橋成一トーク

ナージャの村
НАДЕЖДА

Nadja's Village

2012 **6/30**

開場 18:30 開演 19:00

つくばカピオホール

主催：本橋成一&スズキコージ展・50人委員会

後援：脱原発ネットワークいばらき / 常総生活協同組合

協力：千年先の未来・ツクろーかる / テレジンを語る会いばらき / PEOPLE

企画：芸術文化振興NPO準備委員会

<http://before-after3-11.jimdo.com/>

本橋成一&スズキコージ展 「BEFORE&AFTER 3・11」
希望へ

ご挨拶と企画について。

本日は、お忙しい中お越し下さりましてありがとうございます。

この企画は、3・11 以後どのような考えに立って、どのような試みをしたらいいいのかと考えていた時、本橋成一さんとスズキコージさんのコラボレーション「ゲンパツイラナイ展」に出逢ったことが、始まりです。

その展示は、写真と絵と二人のオリジナリティーが重なりあって、不思議な思いがしました。その思いとは、これから必然的に私たちは原発や放射能ということを考えて生きていかざるをえない。その暮らしの「考え方」へのヒントだったと思います。

その、「ヒント」を二人の3・11 以前と以後を横断し、作品を見たり、体験したりすることで、具体的なイメージとして持つ事ができないだろうか？それが、これからの生き方の糧（希望）となったらいいなと、そのような思いで『本橋成一&スズキコージ展 「BEFORE&AFTER 3・11』』と題して企画した次第です。

本日オープニング企画として、上映されます「ナージャの村」のナージャとはナジェージダという少女の愛称です。ナジェージダという言葉は「希望」という意味があるそうです。

たまたま、この少女の名前が「ナジェージダ」だったのでしょうが「ナージャの村」と題した本橋氏の思いは、そこから普遍的な希望とは、チェルノブイリ事故という絶望の中で、あえて希望とは何だろうか？と私たちに呼びかけているように感じます。

3・11 を体験してしまった私たちは、再度この思いに立ち、しっかりとこの出来事に対峙しなければならないと思います。

3・11 とは何だろうか考えると、原発を止めることが目的ではなく、目的は原発をやめられない社会を変革することだと思います。

それは、長い運動で、もしかすると終わりのないものかもしれません。

そう考えると、もっと多様な変化の兆しとしての希望を見いださないといけないと感じています。

そのようなことを考えながら、この企画を進めていきたいと思います。ここから、見えてくるものが確かな変革でありたいと思いながら。

ナ ー ジ ャ の 村

ゲストトーク・本橋成一
26年目のチェルノブイリ
～「ナージャの村」その後～

開場 18:30 / 開演 19:00 (21:30 終了予定)
上映時間：118分



ベラルーシ共和国ゴメリ州ドゥチチ村。
チェルノブイリ原発事故で汚染された小さな村。
皮肉にも、放射能に汚染された村は、原子力の恩恵を受けない生活続ける村だ。

政府からの立ち退き要請で、村は地図から消えてしまった。
村の3ヶ所の入口はゲートで遮断され、外部の人間は許可証がないと入れない。
それでも故郷を離れず、汚染された村に残る6家族がいる。

ユートピアのように美しい村。四季が移ろう。
麦やじゃがいもを育て、きのこを採り、詩を口ずさむ。
美しく厳しい自然とともに、大地に根ざして明るくたくましく生きる彼らの暮らしは、
豊かさとは何かということを私たちに教えてくれる。
本橋成一が、写真家ならではの美しい映像で綴る、いのちの大地の物語。

<スタッフ>

企画・監督：本橋成一
製作総括：鎌田實
製作：神谷さだ子、小松原時夫
撮影：一之瀬正史
編集：佐藤真
音楽：小室等
語り：小沢昭一

<受賞歴>

エコメディア（ドイツフライブルグ国際環境映画祭）グランプリ
第18回ハワイ国際映画祭ドキュメンタリー部門 グランプリ
台湾国際ドキュメンタリー映画祭アジア映画連盟特別賞
トルコ国際環境映画祭批評家賞
平成9年第8回文化庁優秀映画作品賞（得票数第四位）
第6回1997年度日本映画撮影監督協会 JSC 賞本賞



Seiichi Motohashi



本橋 成一 (モトハシ セイイチ) 映像作家・写真家

1940年東京都生まれ。自由学園卒業。上野英信と出会い、九州や北海道の炭鉱の人々を撮りはじめる。以後、生身の民衆像を追い続け、大衆芸能、サーカス、上野駅、魚河岸などが主要なテーマとなる。「炭鉱・ヤマ」で1968年第5回太陽賞、1995年「無限抱擁」で第45回日本写真協会年度賞、1998年「ナージャの村」で土門拳賞受賞。最新作は写真集「屠場 くとは」(平凡社)。映画では、1998年、チェルノブイリ原発事故の被災地で暮らす人々を撮影した『ナージャの村』を初監督。以降2002年『アレクセイと泉』、2006年『ナミイと唄えば』、2009年『バオバブの記憶』と計4本の作品を監督。またプロデュースを手掛けた映画作品として『水になった村』(2007年)、『祝の島』(2010年)がある。2011年からスズキコージ氏とのコラボレーション「ゲンパツイラナイ展」。

koji Suzuki



スズキコージ 絵本作家/イラストレーター

1948年静岡県生まれ。物心がついた頃から絵を描き始めて現在に至る。1968年新宿歌舞伎町の路上にて初個展、1971年個展「コージズキンの世界」開催。サイケデリックフーテンヒッピー生活の中で才能はさらに磨かれ、「イラストレーター」の名称が世に出た頃にデビュー。1987年に「エンソくん きしゃにのる」(福音館書店)で小学館絵画賞、1988年「ガラスめだまときんのつのやぎ」(福音館書店)&1989年「やまのディスコ」(架空社)で絵本にっぽん賞、2004年「おぼけドライブ」(ビリケン出版)で第35回講談社出版文化賞絵本賞を受賞、2007年浜松市、浜松ゆかりの芸術家受賞、2008年「旅ねずみ」(金の星社)で第22回赤い鳥さし絵賞を受賞。2009年「ブラッキンダー」(イーストプレス)で第14回日本絵本賞大賞を受賞。創作絵本、画集、マンガ、映画や演劇のポスター、舞台装置や衣装、店の看板やマッチ箱、壁画など、その才能は止まるところを知らず、多くのマニアなファンを持つ。近年は自ら出演もするライブもこなし、好評を博している。中南米、東南アジア、東欧などを行ったり来たりその幅広い活躍にはまだまだ目が離せない。別名『コージズキン』。2011年より、本橋成一氏とのコラボレーション「ゲンパツイラナイ展」。



『BEFORE&AFTER 3・11』



本橋成一写真展「屠場」を観て

大日方欣一
「フォトアーキビスト・50人実行委員会」

冷蔵施設内のひんやりした空気の感触と、心臓の熱さが同時にそこにある。脂肪の清冽な白と、タイル壁に飛び散った血の黒痕のコントラストが、深々とした印象をのこす。何より、そこには顔がある。人々の顔にアジがある、というのでは足りない。これこそ顔！と説得されてしまう。写真の中の彼らはだれも寡黙、はにかみを滲ませているようでさえあるのに。

ひとつひとつの場面、そこに見る顔貌ひとつひとつに、まさにここから一本の映画が起動しだすかのような、エッセンシャルなものを感じる。映画の素、物語の素になんと充ち満ちていることか。

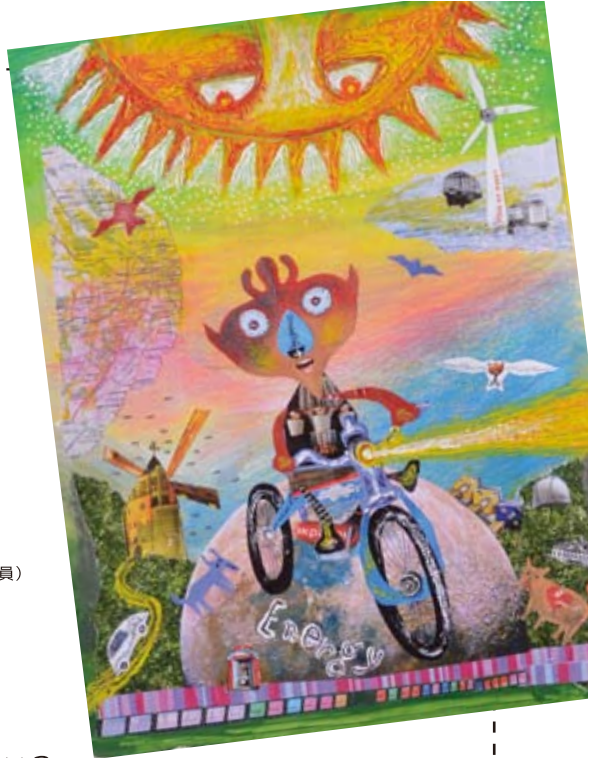
銀座ニコンサロンで先頃催された本橋成一写真展「屠場」を観て、この写真家の仕事に対する認識をあらたにした。

それはおもに1980年代、長期にわたって撮影された、動物と人間がきびしくいのちをやりとりする場面をつづるドキュメントで、ほとんどのショットが屠場の内部での仕事の流れに密着して撮られているのだが、直接描かれているわけではないフレームの外にひろがる街や暮らしの姿もまた、映像のつみ重なりをとおし自ずとかがわれてくる。本橋さんのまなざしは、レンズで対峙する現実（及びその意味）を閉じた空間に封じ込め、固定するのではなく、開いていこうとする。街へ、日常へ、社会的歴史的コンテクストのひろがりへ。だから、重さに傾きすぎることなく、風通しがこんなにもいいのだ。

1980年代に「屠場」に取り組んだ写真家のまなざしは、僕らがそれぞれに持ち場で辿ってきた20世紀末から現在にいたる時代の流れ、リアルということが根底から変容をとげてきたといえるかもしれない過程、この捉えがたい現在を、どう見つめ、どのように漕ぎわたってきたのだろう。今回の展覧会及び映画上映イベントは、それをとくと味わうよい機会となるのではないだろうか。

ジョイフル ワンダフル コージズキン

安永知栄（実行委員）



頭の中がぐちゃぐちゃに
こんがらがった そのときは
「頭巾」をかぶってみるといい

頭巾は「ずきん」
でも
こんなときは コージズキン！

コージズキンはいろいろあるよ
1番身近なズキンは紙製で
1ページずつ
めくって読むようになっている

本屋や図書館で手に入る
これから読もうというときは
できれば場所も選ぶといい

なるべくたくさん空気が吸えて
なるべく自由に感じるところ

いへのソファや公園のベンチ
ふかふかふとんや芝生の上

ひとりで読むのも楽しいけれど
隣にだれかいるといい
好きな人と一緒に読めたら それが最高

さあ
準備はいい？
目をみひらいて
おなかに力をいれて
からだ全体で読んでみよう！

どこから見ても コージズキン
どこから読んでも コージズキン
どこから触れても コージズキン

言われなくてもすぐ分かる
心が跳ねる 不思議な ズキン

タタタントン とひとしきり
読んだころに気づいたら

あれ
いつの間にか
頭の中のこんがらがりは
すっかりほどけてなくなっている
気分爽快 コージズキン

あー おなかがすいた
ごはん食べて またがんばろう

こんどは コージズキンに会ってみよう
つくばで ライブな コージズキンに

ズキんをかぶった女の子より

気軽に
のぞいてね!

ロビーにて
出店
しています

お店紹介

ポレポレ

映画のパンフレット、本橋成一さんの写真集、DVD など販売。



農業・化学肥料を一切使わず、土作りにこだわった安全で美味しい野菜を作っています。食べる人も気軽に農作業に参加できる場となり、農業が抱える課題と一緒に向き合いながら、生業としての有機農業を広げていくことを私たちは目指します。

オーガニックファームつくばの風有限会社
つくば市手子生 997-1 TEL 029-847-9880

♪もっくんカフェ♪

「自家製スイーツ&パン・コーヒー・創作ドリンクの移動販売車『もっくんカフェ』です。土日のクレオスクエアキュートの他、つくば市内各地にて営業中。スケジュールはHP（「もっくんカフェ」で検索）」



つくばで手織りを通して集まった仲間とオリジナル作品の製作・販売や体験手織り会を催しています。合言葉は”今日も織ってっか?” <http://ottekka.tsukuba.ch/> ottekka@hotmail.co.jp

🍷 うちわ & てぬぐい屋

夏は本来暑いもの。潔く汗をかいて、うちわをパタパタ、てぬぐいでフキフキして乗り切りましょう。イラストレーター安部蓉子による、両面イラストのおトクなうちわ。クルクルまわしてお気に入りの1点を見つけて下さいね。ヨガイラストのてぬぐいもちょっと出します。

かえる工房



旬の地元産素材をいかした身体にうまいお菓子を一つ一つ手づくり致します。どちらにでも配達いたします!
tomoyo-hosokawa-31@docomo.ne.jp

May-Jin



生産者と消費者の「いのちのつながり」を目指し、納得がいくまで、生産地を見学・生産者さんとお話し、また消費者のみなさんと一緒に考え、作り上げていく、May-Jin はそんなちょっと変わった販売・宅配のお店です。無農薬・無肥料のお野菜とお米だから太陽と水と土のエネルギーたっぷり! どうぞ召し上がれ!
<http://mayjin125.blog110.fc2.com/> may-jin@aria.ocn.ne.jp

May-Jin の自然栽培野菜

『BEFORE&AFTER 3・11』

Eventスケジュール

■展覧会 本橋成一&スズキコージ展
『BEFORE&AFTER 3・11』希望へ
つくば美術館/入場無料
2012年7月18日(水)~7月22日(日)
9:30~17:00 (入場16:30まで/最終日15:30終了)

■2人のコラボレーション作品展: 本橋成一 × スズキコージ
「No More Atomic Energy! ゲンパツイラナイ展」
7月1日~22日。カフェなど 22店舗で展示。

■ライブペインティング&コンサート
7月19日(木) pm19:00 つくばカピオホール
<ライブペインティング>スズキコージ
<演奏> 渋さチビズ / 川下直広 (sax) / 七尾旅人 (vo.g)

■キッズワークショップ
スズキコージのお面 DE パレードしようぜ!
7月22日(日) 10:00~エキスポセンター前・水の広場
(ワークショップ参加料・一人 500円/要予約)

■映画を見つめて / つくばカピオホール
「アレクセイと泉」 上映時間: 104分
7月22日(日) 開場 18:30 / 開演 19:00 (21:30 終了予定)
*ゲストトーク: 監督 / 本橋成一

<映画 / ナージャの村・アレクセイと泉> 全席自由
一般 前売券 1200円 / 当日券 1400円 ★2日間通し券 2200円
*大学生・大学院生・障がい者 800円 (WEB・電話予約のみ扱い)
*高校生以下 500円 (WEB・電話予約のみ扱い)

<ライブ / スズキコージ+渋さチビズ劇場> 全席自由
一般 前売 3500円 / 当日 3800円
*学生・障がい者 3000円 (WEB・電話予約のみ扱い)
*高校生以下 2000円 (WEB・電話予約のみ扱い)

<すべて見る! セット券 >
★映画 2日通し+ライブ 5000円 (WEB・電話予約のみ扱い)



『旬のお野菜』を
どうぞ!
生産者が心を込めて
育てた



農薬や化学肥料を
使わないで育てた
野菜だけを集めた
野た。

つくば市松代5丁目7-1 tel/fax029-875-3627
http://omiyasyoten.web.fc2.com/

みる・あそぶ・はぐくむ
大人と子どもが共に育ちあう
つくば子ども劇場

「つくば子ども劇場 ブログ」で検索

TEL/FAX 029-852-9134
月~金 10時から15時
298kodomogekijo@gmail.com

